



「レーザー研究」誌の編集に当たって

岡田 龍雄[†]

From The Editor of The Review of Laser Engineering

Tatsuo OKADA[†]

新年明けましておめでとうございます。今期よりレーザー学会誌「レーザー研究」の編集委員長を務めております。表紙のロゴでお気づきのようですが、本年はユネスコの「国際光年」が宣言されており、国際光年の初刊号の発刊に当たり、「レーザー研究」の編集方針について所感を述べさせていただきます。

レーザー学会は、レーザーに特化した我が国唯一の学会で有り「レーザーに関する研究の進歩普及を図り、もって学術の発展に寄与する」ことを目的としています。「レーザー研究」は、この学会の目的を実現する重要な役割を担っています。現在、レーザー学会の会員は約1200名です。「レーザー研究」の使命は、まずこの1200名の会員読者への情報提供とともに、会員からの情報発信の場として機能することです。さらには、社会へ向けての学会の主張発信の手段でもあります。

現在の「レーザー研究」の構成は、オリジナル論文、解説特集/小特集、「フラッシュ」と名付けた情報提供記事や、研究会・講演会開催案内などの会告記事より構成されています。オリジナル論文については、残念ながら現状は十分アクティブと言える状況ではありません。編集委員会では、座長に推薦をいただいた年次大会での発表や、奨励賞を受賞された若手会員の方に執筆投稿を勧誘しているところですが、会員の皆様には、研究成果の発表の場としてより積極的なご投稿をお願いいたします。

解説特集/小特集は、執筆者のご協力に支えられて非常に充実した内容になっていると自負しています。ただ、多くの場合編集委員会での企画に基づいており、さまざまな領域に興味を持っておられるレーザー学会の個々の会員の皆さまの要望にどれだけ答えているかはいつも気になっているところです。特集テーマについては、会員からの希望や提案を有効に取り上げられるような仕組みも工夫したいと思います。

一方、今後の学会の発展を考えると若手会員や女性会員、特に企業に所属する若手会員とその母体である賛助会員企業のさらなる増強は大変重要な課題です。これは学会全体として取り組むべきことですが、「レーザー研究」もこれらの会員にとってより魅力的なものにしていく必要が有ると思っています。その一つとして、「フラッシュ」欄をさらに充実させたいと思っています。現在、「フラッシュ」欄は主に国際会議参加報告やレーザー学会産業賞の受賞報告などの記事になっています。今後その内容の多様化と情報提供の迅速化により「レーザー研究」誌を会員にとってより魅力的で身近なものにする一助にしたいと思います。

「レーザー研究」誌をより良いものにするために、皆さまからの積極的なご投稿と編集委員会へのご意見をお待ちしております。

[†]九州大学大学院 システム情報科学研究院電気システム工学部門 (〒819-0395 福岡市西区元岡744)

[†] Kyushu University, 744 Motoooka, Nishi-ku, Fukuoka 819-0395